

第1学年 国語科学習指導案

日時 令和3年10月26日(火)
対象 第1学年3組34名
指導者 大倉 絃子

1 単元名

『かたかなを かこう』

2 単元の目標

- 片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができるようにする。 【知識及び技能】
- 語と語の続き方に注意しながら、書き表し方を工夫することができるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
- 片仮名の表記の仕方に気を付けながら、文の中で使おうとしている。
【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・片仮名を読み、書くとともに、文や文の中で使っている。	・「書くこと」において、語と語の続き方に注意しながら、書き表し方を工夫している。 ・見つけた言葉がどのように分類されるかを伝え合おうとしている。	・これまでの学習を生かし、片仮名の表記の仕方に気を付けながら、文の中で使おうとしている。

4 単元について

(1) 教材観

この単元は、9月の単元「かたかなをみつけよう」に続く2つ目の片仮名の単元である。9月には、片仮名の伸ばす音や小さく書く書き方をひとつお習得している。しかし、平仮名のように時間をかけて指導する機会が少ないため、普段の文章の中で片仮名の文字が平仮名になったり、片仮名の書き間違いをしたりする児童が多い。ここでは、特に片仮名の長音や拗音、促音を読んだり書いたりする機会を多くとることで片仮名の定着を図りたい。

文章を書く機会が増えてきているが、片仮名言葉と平仮名言葉の区別がうまくできない児童がいる。そのため、様々な片仮名言葉を集めた後、長音や拗音、促音の入る言葉に注目し、分類させたい。このことで、たくさんの片仮名言葉に触れることができ、片仮名の定着にもつながると考える。

(2) 児童の実態

これまで、平仮名や片仮名の学習を進めていくうえで、言葉集めや「～が、～を～」などの定型文を書く際、思い思いに考えて楽しんで活動する姿が見られた。しかし、書字スピードに差があったり、文字の想起に時間がかかったりすることもあり、思いついていてもノートに表しきれない児童がいた。また、9月の単元「かたかなをみつけよう」の学習で、コラボノート®EXを使用してグループごとに○から始まる言葉と指定して片仮名を集めた。片仮名ドリルや教科書を見てもよいこととしたが、なかなか片仮名言葉を思いつかない児童が見られた。そこで、今回は広告を用意し、一人で活動

できる児童も、一人では思いつかなかつたり、文字を想起できなかつたりする児童も活動がしやすいようにする。また、見付け終わった児童は、広告にある言葉から関連した言葉などを書き足してよいことを伝えておくと、どの児童も意欲的に活動できると考えた。キーボードは50音に設定をしているが、コラボノート®EXは文字を自分で書いて変換できるので文字を打つ際に時間がかかりにくい。手書き機能は、形で判断するため書き順が関係なくなるため、事前に書き順にも気を付けるよう指導したい。

タブレットを活用する学習に関しては、意欲的に取り組む児童が多い。また、コラボノート®EXを使うと文字の書字スピードにもあまり差が見られないため、協働的な学習にはよいと考える。分からないことがあると、互いに教え合う姿も見られる。

5 研究主題との関連

(1) 主題に迫るための2つの手だて

研究主題に迫るために本單元における手だてや学習活動を以下に示す。

個別最適な学び

- ・自分で片仮名を探して、表記に気を付けながら書く。
- ・みんなで見付けた片仮名言葉から、短い文章をノートに書く。

協働的な学び

- ・グループで協働し、仲間分けをしたり読み方を確認したりする。
- ・他のグループが見付けた言葉を確認する。

一人では見付けきれない片仮名言葉をみんなで協働することにより、たくさんの片仮名言葉を知ることができる。と考える。

(2) ICT 活用の経過

5月にタブレットを使い始めてから、授業で積極的にタブレットを使用してきた。具体的な活用実態について以下の表にまとめた。

時期	ツール	内容
5月	カメラ Google ドライブ	写真を撮ってその画像に絵を描く あさがおの写真を Google ドライブに保存する(～現在まで) 写真を見ながらあさがおの観察
6月	Google Classroom 質問機能 ダンジョン&ドリルズ Power Point	Google Classroom で選択式の質問をし、回答する 計算の復習 くちばしクイズ作り
7月	Google Jamboard	図工の作品の写真を入れる
9月	コラボノート®EX GarageBand	夏休み楽しかったこと(寄せ書き) 片仮名の学習 図工の作品の写真を入れてみんなで鑑賞 (自分の作品の題名を書き、工夫したところを付箋で入れる。 友達から付箋で良いところを書いてもらう。) 音楽の演奏

はじめの頃は、カメラ機能の使用が主だったが、Google Classroom を活用して質問の回答や課題の配布も少しずつ行うようになった。Google Jamboard では、友達の付箋を動かしたり消したりできてしまう懸念から、付箋機能の活用はしていない。

9月から、コラボノート®EX を活用して学習をする機会が増えた。最初は「個別学習モード」にし、自分で考えて学習を進め、その後友達の考えが見られる「協働学習モード」にしている。これにより、自分一人では気が付かなかったことに気付きを得る様子があった。

今回の学習内容は、皆で広告から片仮名言語をみつめ、それをグループで共有し長音や拗音、促音の入る言葉に分類する。次時には、集めた片仮名を使った文章を完成させるという学習計画を立てた。ロック機能が使えて友達の付箋を間違えて消してしまう懸念がないこと、個別の学習から協働的な学習に移行しやすいことのメリットから今回はコラボノート®EX を活用した。今後も、個人の意見を示してから全員の意見を見ることが出来る機能は大いに活用できると考える。

今回の学習の流れ

- ①コラボノート®EX のページの名前をグループごとにした課題を作成する。
- ②「個別学習モード」に設定し、自分の場所に付箋を書き足す。
- ③「個別学習モード」を解除し、班全員の付箋を共有し、友達と話し合い分類する。
- ④最後に全員の付箋を「ふせんまとめ」で見せて共有する。

6 単元の指導と評価の計画（3時間扱い 本時 2 / 3）

次	時	学習活動	○評価規準【観点】 ★ICT の活用
一	1	片仮名の長音や拗音、促音の表し方を知り、正しく読んだり書いたりする。	○片仮名の長音や拗音、促音の表し方を理解し、正しく読んだり書いたりしている。 【知・技】
	2 本時	広告から、片仮名言語を探す。集めた言葉を分類し、全員で共有する。	○身近なものの中に片仮名で表されているものがあることに気付き、進んで探そうとしている。 【態】 【思・判・表】 ★コラボノート®EX
二	2	見つけた片仮名言語を使って、短い文章を作り、友達と伝え合う。	○前時で集めた言葉から、短文を作り、友達と伝え合っている。 【態】 【思・判・表】

7 本時の指導 (2 / 3)

	学習活動	○評価【観点】 ※指導上の留意点
導 入	1 本時のめあてを確認する。	
	かたかなことばをあつめよう。	
5 分	2 授業の流れを確認する。 ①コラボノート®EX に広告から見付けた言葉を付箋機能を使って個人で書き出す。 ②班の全員から出てきた片仮名を共有する。 ③出てきた言葉を、長音、拗音、促音の入る言葉に分類する。 ④みんなが集めた言葉を電子黒板で確認する。	※手順を掲示する。 ※付箋を貼る位置は、担任があらかじめ指定して知らせておく。 ※キーボードは使用せず、手書きで文字を書く。 ※自分の広告から見付けられる言葉がなくなったときは思いついた言葉を書いてもよいことにする。 ★コラボノート®EX
展 開 30 分	3 コラボノート®EX に広告から見付けた片仮名言葉を付箋機能で書く。 4 コラボノート®EX を班で共有し、長音、拗音、促音の入る言葉に分類する。 5 「ふせんまとめ」をし、テレビ画面を見ながら全員で読む。	※活動をしていないときは教師が操作ロック機能を使い、全員が話を聞けるようにする。 ○ 片仮名を読み、書いている。 【知・技】 ※最初は皆黄色の付箋を使うよう指定する。 ※後に「ふせんまとめ」機能が使えるように、「協働学習モード」で付箋の色を協力して変えるよう話す。 長音の入る言葉 →ピンク 拗音、促音の入る言葉 →みどり 長音、促音が混ざる言葉→あお どれも入らない言葉 →オレンジ ※同じ言葉が出てきているときは、友達と相談してできるだけグループで一つにするようにする。 ○ 集めた言葉を、グループで話し合いながら分類しようとしている。 【思・判・表】 ※教師がテレビ画面にコラボノート®EX の画面を映し出す。 ★コラボノート®EX
ま と め 10 分	6 振り返りをする。	※ノートに学習感想を書く。

成果と課題、指導・講評 【R3 1年 研究授業】**1. 「個別最適な学び」に新聞広告を使用したことは有効であったか。**

- 新聞広告は、片仮名言葉を想起させる手だてとなっていた。
- 身近な題材だった。
- 書き写すことで、字の間違いが減った。
- 「広告にないものを見付けてもよい。」という言葉掛けがあったので、個別最適な学びになっていた。
- 次時で集めた片仮名言葉で短文を作るので、商品広告以外（動物園パンフレットなど）があるとよかった。

2. コラボノート®EX を使ったことは、グループで協働し、たくさんの片仮名言葉を知るのに有効であったか。

- グループ毎で新聞広告が異なっていたので、それぞれ集めた言葉を共有しているという実感ももてていた。
- コラボノート®EX のよさが生かされていた。（「ふせん」の色の変更、色ごとの集約など）
- 読む時間を短くし、書く時間を多く設定できるとよかった。

3. その他

- ほとんどの児童が意欲的に学習活動に取り組んでいた。
- 操作がとてもスムーズで、今日までの積み上げを感じた。
- 国語科として押さえない内容がコラボノート®EX だと押さえにくいので、別の時間で設定する必要がある。
- 「ふせん」が横書きだったので、次時につなげるためには縦書きで書く必要がある。

指導・講評 NPO みんなのコード 福田 晴一 先生

- ・単元について 広告という題材はよいアイデアで低学年の発達段階に合っていた。
- ・ICT の特徴をよくつかんでいる。
- ・個別最適な学びは個々の児童のよさを伸ばすために行い、協働的な学びは異なる考えの組み合わせるために行う。
- ・手書き入力は、4領域（マスで区切られた4つの部屋）に合わせて書かないと認識しないので、左利きにはやりづらいかもしれない。
- ・広告から、一つでも多くの片仮名を見付けることができた。さらに知っている児童は広告以外にもどんどん入力することができた。⇒個別最適な学びにつながった。
- ・担任の適切な指示（バグ修正・情報の比較、整理）と、自然に操作方法を教え合う児童の姿がよかった。
- ・色覚障害の児童には「付せんの形を変える」や「形マーキング☆□△●」が有効である。